

防火訓練を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 教員 奥田 真由美

令和5年4月28日、火災もしくは災害発生時、速やかに安全な場所へ避難する体験を行うことを目的に防火訓練を行いました。また1年生ははしご訓練、消火器・消火栓の使用も体験しました。

防火訓練は、夕方に学生寮で火災が発生したことを想定し行いました。学生は初期消火が困難であったため、一斉放送の指示に従い寮の自室や学校の教室から入船山公園多目的の広場まで避難しました。事前に訓練時の注意点についてオリエンテーションを行っていたこともあり、学生は友達同士で話をせず、真剣な面持ちで落ち着いて行動できていました。また、避難場所に到着後、速やかに人員確認を行い報告もできていました。訓練を終えて、学生からは「実際に訓練を行って火災時に自分たちがどのように動けばいいのかイメージができた」「避難場所や避難経路を把握していくことが大切」「実際の火災時は焦るだろうけど、落ち着いて行動できるようにしたい」などの気付きがあり、訓練の必要性を改めて感じました。

今回、学生は防火に対して体験することでしか学ぶことができない貴重な経験をしました。防火訓練は1年に1回ですが、万が一、火災や災害などが行ったときは全員が確実に避難できるよう、学生たちには日頃から学校や寮における人員把握を怠らないよう心がけるとともに、経験を重ねていくことで防火に対して広い視野で考えることができるようになってほしいと思います。



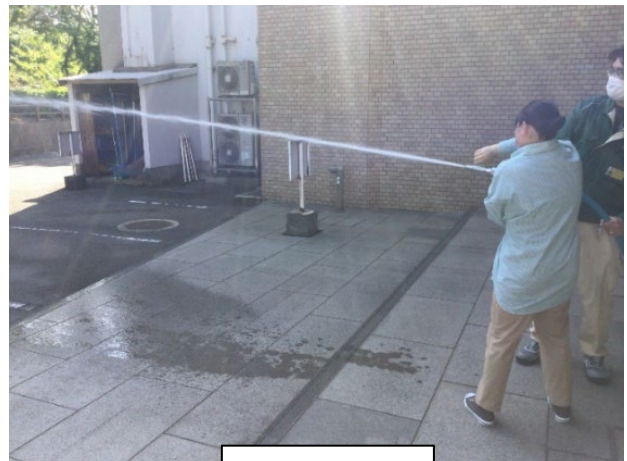
<避難の様子>



<はしご訓練>



<消火器体験>



<消火栓体験>